

令和4年度 事業計画

公益財団法人滋賀県文化財保護協会

I 協会運営

第五次中期計画（平成30年度～令和4年度）に基づき、文化財の高い公益性を社会に還元することで県民ひいては社会全体の文化的な生活の向上に寄与し、より力強い社会貢献の実現に向けて下記の6項目を中心に取り組みます。

また、令和元年度に策定された『滋賀県文化財保存活用大綱』に基づき、文化財の保存と活用に関する積極的な取り組みを推進し、びわこ文化公園の活性化にも周辺の施設と共に取り組みます。

引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防策に心がけつつ、ウイズ・コロナ時代を見据えて、展示や講座・講演会等の実施にあたって、インターネットを活用したデジタルによる情報発信も積極的に行います。

- 取組1 国・県事業および市町事業に関わる埋蔵文化財発掘調査の効率的な推進
- 取組2 文化財を通した市町・民間とのより積極的な協働と新たな連携の推進
- 取組3 これからの時代にふさわしい文化財の保存と活用に寄与できるような、より効果的な情報発信と主体的事業の実施
- 取組4 文化施設の適切な維持管理と文化財情報の発信の基礎としての公開・活用の強化
- 取組5 財団運営を支える人材の育成と安定的で持続可能な財務基盤の確立
- 取組6 第六次中期計画の検討と策定

1. 役員会議等

決算監査	1回開催予定
理事会	4回開催予定
評議員会	1回開催予定

2. 職員構成

協会事務局および各事業所所属職員の構成

	協会事務局	埋文センター	安土城考古博物館	琵琶湖文化館	計
人員	26	1	9	1	37

3. 管理運営

- (1) 平成24年4月1日付で滋賀県より公益財団法人として認定され、11年目を迎えます。また、『第五次中期計画』最終年度として実現度のチェックを行い、次期中期計画の策定に取り組みます。
- (2) 滋賀県立安土城考古博物館は、県からの第4期指定管理の2年度になります。展示リニューアル（令和4年度実施設計）に向けて県との連携をはかり、新たな自主事業についても工夫しながら取り組み、さらに魅力ある博物館となるよう努めます。
- (3) 滋賀県立琵琶湖文化館、滋賀県埋蔵文化財センターの施設管理を適切に行います。

4. 主な取り組み内容

取組1 国・県事業および市町事業に関わる埋蔵文化財発掘調査を効率的に進めます。

- ①発掘調査14件（調査面積約35,000m²）、整理調査16件（報告書刊行5件）の実施予定
 - ・国交省が進める事業への対応
 - 発掘：辻・安城寺遺跡、佐和山城跡（継続）等
 - ・県（土木交通部・農政水産部）が進める事業への対応
 - 発掘：里西遺跡（継続）、千僧供古墳群・御館前遺跡、六地蔵遺跡等
 - 整理：蜂屋遺跡、高野遺跡、大野・普門南遺跡等
 - ・市町事業への対応
 - 発掘：福満遺跡（彦根市）等
 - 整理：福満遺跡（継続）、榊差遺跡（継続）
- ②調査精度の維持と迅速で効率的な現場運営…デジタル測量技術の導入（ドローン）
- ③発掘調査事業の受託方法の見直しの検討

取組2 文化財を通した市町・民間とのより積極的な協働と新たな連携の推進をはかります。

当協会に蓄積された技術職員の経験やノウハウ等を活かし、積極的な文化財の保存と活用に向けての企画と事業のマネジメント、運営を実施します。また、大学との連携により将来の技術職員の人材育成に努めます。

- ①市町、民間事業者連携事業
 - ・「文化財保存活用地域計画」の作成支援
 - ・活用支援団体等（マネジメントを支援）の指定をめざします。
 - ・市町が進める文化財の普及活用事業との連携
 - ・歴史文化遺産活用セミナーの開催
 - ・滋賀県シルバー人材センター連合会との連携による講習・講座の実施

- ・民間事業者との連携講座等の実施
- ・各市町への企画の提案および新規事業の受託

②大学連携事業

- ・調査補助員としての受入、専攻生のインターンシップの受入、博物館実習の受入およびオープンキャンパスへの協力を強化し、後進の育成に繋げます。
- ③文化財保護資金および文化財活用資金の貸付事業の推進
- ・効果的なPRに努めます。

取組3 これからの時代にふさわしい文化財の保存と活用に寄与できるような、より効果的な情報発信と主体的事業を実施します。

- ①文化財の普及・活用の実現に向けてより効果的な情報発信（デジタル情報の活用）の推進
 - ・発掘調査の現地説明会の実施
 - ・整理調査の報告会としての「レトロ・レトロの展覧会」「あの遺跡は今」の開催
 - ・印刷物（文化財通信、事業紹介パンフレット、DM等）の充実
 - ・ホームページの充実
- ②連続講座の実施（連続講座「文化財もの知り学」、博物館展示関連講座、民間事業者の講座）
- ③調査機関ならではの体験講座の実施
- ④協会設立50周年事業の実施

取組4 管理運営している文化施設の適切な維持管理と文化財情報の発信の礎としての公開・活用の強化に努めます。

- ①文化財の保管管理や展示活用に適した施設、設備の維持・改善
- ②文化財を公開、活用するための情報発信の強化
- ③安土城考古博物館では開館30周年を機とし、情報発信の強化、近隣施設等の連携による入館者増対策を推進し、地域に親しまれる博物館運営の実現に努めます。また、デジタルミュージアム事業等の推進と常設展示リニューアルに向け、県との連携に努めます。
- ④埋蔵文化財センターでは、県と共にあるべき姿の実現に向けての検討に努めます。
- ⑤埋蔵文化財センターの立地するびわこ文化公園の活性化のため、美術館・図書館・公園管理事務所等との機能連携に努めます。
- ⑥琵琶湖文化館では、収蔵資料を活用した企画の推進に努め、（仮称）新・琵琶湖文化館への移転がスムーズに行えるよう県との連携に努めます。

取組5 財団運営を支える人材の育成と安定的で持続可能な財務基盤の確立に努めます。

- ①協会業務の専門性の維持およびスキルアップ
 - ・技術等の習得のための研修等への積極的な参加を推進
 - ・文化財に係る講演会・書籍等による自己研鑽
 - ・職員の社会貢献の取組み状況の見える化
 - ・企画担当および博物館学芸員の業務継承と人材育成
- ②事業費の獲得と限られた財源の効率的、効果的な執行
 - ・キャッシュフローへの再確認と整理
 - ・「働き方改革」を受けての非正規職員の待遇改善の検討

取組6 第六次中期計画の検討と策定を行います。

現在取り組んでいる第五次中期計画（平成30年度～令和4年度）の取り組み状況のチェックを行った上で、協会を取り巻く文化財行政の現状を鑑みながら、あらたな次期中期計画の検討および策定に取り掛かります。

II 企画事業

予算額 6,385千円

1. 基本方針

令和4年度は、前年度に米原市から受託した地域計画の策定支援事業を確実に推進させ、文化財保存活用支援団体に指名されることを目指すとともに、その他の市町・民間事業者連携事業や、大学連携事業、文化財情報発信事業を引き続き展開し、地域やそこに息づく多様な主体への積極的な貢献を通じ、必要不可欠なパートナーとして認められていくことを目標とします。

また、滋賀県政150周年記念の機運を歴史文化の観点から盛り上げ、『びわこ文化公園』都市が持つ総合的機能を活かした連携事業の基盤づくりを進めつつ、新型コロナウイルスの影響に対しても感染防止策を徹底させながら事業展開させることとします。

（1）市町・民間事業者連携事業

市町等が作成を進める文化財保存活用事業への関与や連携、企画提案等を通して、市町等への地域貢献を積極的に進め、文化財の保護・活用を通した「地域づくり、人づくり」に寄与していくこととし、文化財保存活用地域計画を含め文化財を扱うコンサルタント事業の受託、文化財保存活用支援団体への指定を目指し、社会・地域への貢献をさらに強化し、文化財を扱う組織としての信頼と妥当性を高めていきます。

（2）大学連携事業

当協会がもつ現場力を大学と連携することにより広く外部に発信します。併せて、その魅力を学生と協働することにより体感してもらい、後進の育成につなげ

ていくこととし、長期休暇を中心とした発掘調査等のアルバイトの受け入れ、インターンシップの受け入れ、大学オープンキャンパス等への参加などをさらに進化・充実させていきます。

(3) 文化財情報発信事業

滋賀県の埋蔵文化財行政の一翼を担う調査機関として、従来から取り組んでいる情報発信活動を活性化し、貢献対象を拡大していくこととし、文化財の保護・活用の裾野拡大と当協会の社会的価値向上を実現していきます。

2. 具体的な取り組み

上記1の「市町・民間事業者連携事業」、「大学連携事業」、「文化財情報発信事業」の3つの柱を体系的・相互に連動させ、具体的な取り組みを進めていきます。

(1) 市町・民間事業者連携事業

市町等との協働による地域貢献を積極的に進めます。

1) 市町等との連携 [中期計画(1)①b・(1)①c・(2)①i b・(2)①ii a 対応]

市町等が主体で取り組む事業に当協会が積極的に参加・協働することで、地域の文化財保存活用活動を盛り上げ、文化財を通じた「地域づくり・人づくり」に貢献していくことを目的とします。

また、併せて市町職員と交流を深め、協会職員の資質向上、県民や市町から見た当協会の社会的価値の向上を目指します。

①「文化財保存活用地域計画」等の作成事業の推進

②「地域」を取り上げた文化財活用事業の実施

③歴史文化遺産活用セミナーの実施

on-line ツールとしての Zoom ミーティングを活用

④地域の文化財の調査事業の掘り起こし・提案・受託

2) 民間事業者との連携 [中期計画(2)①i a・(2)①i b 対応]

民間事業者と連携して地域の文化財保存活用活動を盛り上げ、文化財を通じた「地域づくり・人づくり」に貢献していくことを目的とします。

また、民間事業者と協働することにより、民間独自の視点で広く県民に文化財情報・価値を発信し、併せて当協会の社会的価値の向上を目指していきます。

①シルバー人材センター等からの事業の受託およびその基盤整備・維持

i) 遺跡発掘業務研修

ii) ガイド育成講座

②講師派遣の事業

(2) 大学連携事業 [中期計画(2)①ii a・(2)①i a 対応]

後進育成や地域社会への貢献に必要なパイプを構築・維持していきます。また、「地域文化財の保存活用事業」を大学と協働して実施することで、県内外にその価値

を発信します。そして、文化財の保存活用事業に従事でき、文化財を通して地域に貢献できる専門性を有した人材を恒常に確保していくことを目的とします。

- 1) 大学専攻生のインターンシップの受け入れ
- 2) 調査補助員としての受け入れ
- 3) 大学が実施するオープンキャンパスへの協力

(3) 文化財情報発信事業

1) 発掘・整理調査成果の発信 [中期計画(3)③b 対応]

従来から実施している発掘調査および整理調査の成果の発信、還元を中心とした普及啓発活動の充実を図ります。

- ①「レトロ・レトロの展覧会」の開催
- ②「あの遺跡は今！2022」の開催

2) 講座事業 [中期計画(2)①i b・(2)①i c 対応]

- ①連続講座「文化財もの知り学 2022」

年間7回の講座「アート&考古学——アートから読み解く近江の歴史と文化財」と現地探訪1回の開催。on-lineツールとしてのZoomミーティング等を活用。

- ②体験講座

3) 協会の取り組みの外部への情報発信事業 [中期計画(3)①i a・(3)②・(3)③a 対応]

- ①研究紀要の発行
- ②機関誌「おうみ文化財通信」の刊行
- ③ホームページの充実と更新
- ④文化財行事案内(DM)の発送
- ⑤広報事業
- ⑥協会事業広報媒体の作成事業

III 発掘・整理調査事業

予算額 553,371千円

埋蔵文化財の保存と活用を図るため、国・旧公団事業および県事業である各種公共事業等に伴う発掘調査および整理調査を行います。また、市町教育委員会が行う発掘調査・整理調査について協力し、埋蔵文化財の保存と活用を図ります。

(下線は報告書刊行予定)

	事業名	発掘調査(件)	整理調査(件)	計(件)
1	國土交通省関係 ○発掘調査： 国道8号線米原バイパス（佐和山城跡[彦根市]） 国道8号線野洲栗東バイパス（辻遺跡[栗東市]、安城寺遺跡[栗東市]） ○整理調査：辻遺跡[栗東市]、上砥山遺跡[栗東市]、佐和山城跡[彦根市]、 <u>矢倉川遺跡[米原市]</u> 、塩津港遺跡[長浜市]、惣山・京ヶ山遺跡[大津市]	3	6	9
2	ネクスコ関係 ○整理調査： <u>椿谷遺跡[大津市]</u> 、敏満寺遺跡[多賀町]	0	2	2
3	県公社関係 ○整理調査：大野遺跡・普門南遺跡[大津市]	0	1	1
4	県土木交通部（道路・河川・砂防）関係 ○発掘調査：里西遺跡[大津市]、比江遺跡[野洲市]、福林寺古墳群[野洲市]、千僧供古墳群・御館前遺跡[近江八幡市]、大門池南遺跡・敏満寺遺跡[多賀町] ○整理調査： <u>里西遺跡[大津市]</u> 、 <u>番場遺跡・播沢遺跡[日野町]</u> 、蜂屋遺跡[栗東市]、福林寺古墳群[野洲市]	5	4	9
5	県農政水産部関係 ○発掘調査：高野遺跡[栗東市]、妙福寺遺跡[彦根市] ○整理調査：高野遺跡[栗東市]	2	1	3
6	市町関連事業等関係 ○発掘調査：明良古墳群[大津市]、福満遺跡[彦根市]、吉身南遺跡[守山市]、伊勢遺跡[守山市] ○整理調査：福満遺跡[彦根市]、 <u>榊差遺跡ほか[草津市]</u>	4	2	6
計	発掘調査面積：35千m ²	14	16	30

IV 滋賀県立施設管理運営業務

県から安土城考古博物館の指定管理を受けるとともに、委託を受けて琵琶湖文化館、埋蔵文化財センターの管理運営事業を行います。

1 滋賀県立安土城考古博物館管理運営事業 予算額 143,822千円

1. 基本方針

開館30周年を機とし、情報発信の強化、近隣施設との連携に努め、多くのお客様に喜ばれ、地域に親しまれる博物館運営の実現に努めます。文化財の保存と公開、デジタルを活用した情報発信をすすめるとともに、常設展示リニューアルに向け、県との連携に努めます。

①魅力ある展覧会の実施

春季特別展では桑実寺・京都国立博物館等から、秋季特別展では東京国立博物館等から資料を借用し、地域に根差した内容で魅力ある展覧会を実施します。

なお春季特別展では、開館30周年の皮切り事業として記念式典を挙行する予定です。

②講座・催し物等の開催

連続講座（2シリーズ）、城郭講座のほか、特別展・企画展に付随して関連講座を実施します。また、当館学芸員による当館収蔵品等を解説する入門講座を実施します。

その他の催し物については、一昨年来のコロナ禍による事業縮小をうけて、催し物本来の目的に立ち返って事業を計画することとします。

また、ポストコロナに向けて近隣府県の小中学校来館学習の受入れを強化し、大学の博物館実習についても引き続き受入れます。

③広報・情報発信戦略の見直し

これまでの広報戦略を見直すこととして、インターネットを活用した広報や、新聞社との連携強化とともに、沿道広告などの地道な手段による広報も強化していきます。

④文化財の保管管理

IPM（Integrated Pest Management 総合的有害生物管理）に基づく収蔵文化財の保管管理と、展示収蔵スペースの空気環境・温湿度の維持管理を引き続き推進していきます。

2. 具体的な取り組み

（1）展覧会事業 [中期計画(4)①iv a 対応]

春季特別展「戦国時代の近江・京都—六角氏だってすごかった！！—」

展覧会期：令和4年4月23日（土）～6月5日（日）

趣 旨：観音寺城の城主佐々木六角氏が戦国時代に近江と京都で活躍した様

子を紹介して、戦国時代に果たした六角氏の役割を再評価します。六角定頼を頼って桑実寺滞在中に將軍足利晴義が奉納した「桑実寺縁起絵巻」(重文、桑實寺所蔵・京都国立博物館寄託)を滋賀県が誇る名品として展示し、会期の一部重なる桑実寺本尊御開帳についても広報します。

また、開幕前日には開館30周年を記念する式典と内覧を計画しています。

関連行事：春季特別展記念講演会

5月29日（日）村井祐樹氏（東京大史料編纂所准教授）

「戦国大名六角氏の史料—定頼期を中心に—」

秋季特別展「大岩山銅鐸—大岩山銅鐸里帰り展—」（仮）

展覧会期：令和4年10月8日（土）～11月20日（日）

趣 旨：大岩山銅鐸はわが国で傑出した出土量を誇る、滋賀県を代表する弥生時代後期の考古遺物です。開館30周年を記念し、東京国立博物館所蔵の2点をはじめとする滋賀県出土銅鐸・銅鏡の里帰り展を企画し、地域において銅鐸と雪野山古墳の再評価を行います。

関連行事：記念講座 2回（予定）

第66回企画展「発掘された近江Ⅱ—遺跡アラカルトー」

展覧会期：令和4年7月16日（土）～9月19日（月・祝）

趣 旨：今回は当協会が受託管理する滋賀県立埋蔵文化財センターとの連携で、協会が実施した近年の発掘成果を集めて展示紹介します。

関連行事：企画展関連講座

7月23日（土）堀真人（協会）「六反田遺跡」

7月30日（土）中村智孝（協会）「上御殿遺跡」

8月20日（土）瀬口眞司（協会）「入江内湖遺跡」

9月17日（土）北原治氏（県）「十里遺跡」

第67回企画展「琵琶湖文化館収蔵品展」（仮）

展覧会期：令和5年2月4日（土）～4月2日（日）

共 催：滋賀県立琵琶湖文化館

趣 旨：長い歴史を持つ琵琶湖文化館には、多くの文化財が収蔵されています。その中から一定のテーマのもとに資料を選択して展示します。

関連行事：関連講座 2回（予定）

特別陳列（3回開催予定）

・近江の遺跡発掘成果①「中世の大名墓所—米原市能仁寺遺跡出土蔵骨器—」

会期：令和4年6月7日（火）～7月14日（木）
会場：望楼下
内容：平成22年度の調査で確認された京極高詮^{たかあきら}の菩提寺と、そこから発見された蔵骨器などを展示紹介します。

- ・近江の遺跡発掘成果②「弥生時代後期の木製品—草津市柳遺跡—」
会期：令和4年11月24日（木）～令和5年1月22日（日）
会場：望楼下
内容：弥生時代後期の優秀な木製品を多数出土した柳遺跡の資料を展示紹介します。
- ・でかける博物館 in 安土城考古博物館
会期：秋季（期間未定）
会場：望楼下
内容：大阪府立近つ飛鳥博物館との連携企画（詳細未定）。

（2）講座事業 [中期計画(4)①iv b 対応]

連続講座シリーズI 「戦国の近江」全5回

講師：松下 浩氏（滋賀県）

- 第1回 5月14日（土）「近江戦国史概観～応仁の乱から安土廃城まで」
- 第2回 6月4日（土）「六角氏と觀音寺城」
- 第3回 7月2日（土）「湖北の戦国時代～京極氏と浅井氏」
- 第4回 8月6日（土）「戦国近江の諸勢力」
- 第5回 9月3日（土）「織田信長の登場」

連続講座シリーズII 「水の考古学」 全4回

講師：用田政晴氏（神戸学院大学）

- 第1回 11月19日（土）「王と武将の水の道をたどる」
- 第2回 12月11日（日）「湖国の湧水を探して歩く」
- 第3回 1月8日（日）「黄河と長江の遺跡と博物館をゆく」
- 第4回 2月11日（土）「東南アジアと西アジアの水の暮らし」

城郭講座「彦根城を世界遺産に」（全3回）

県文化財保護課彦根城世界遺産推進室の職員を講師として迎え、世界文化遺産推薦決定が近づく国宝・特別史跡彦根城を発信する連続講座を実施します。

- 第1回 4月23日（土）
「入門 世界遺産—日本の世界遺産から何が見えるか—」細川修平氏
- 第2回 5月21日（土）「彦根城の価値」鈴木達也氏
- 第3回 6月11日（土）「彦根城が語る新しい江戸時代像」細川修平氏

入門講座「安土城考古博物館をもっと知ろう」（全3回）

当館常設展示室の展示品について当館学芸員が解説します。

- 第1回 6月19日（日）「大中の湖南遺跡の木製品」

伊庭功（当館学芸課長）

第2回 9月25日（日）「中世近江の村むら—須恵八幡神社文書・左右神社文書を中心に—」高木叙子（当館学芸員）

第3回 12月 4日（日）「六角氏と観音寺城」藤崎高志（当館学芸員）

協会連続講座「アートから読み解く近江の歴史と文化財」

（協会本部との連携事業）

当館セミナールームをサテライト会場として、オンラインで中継公開。

探訪

春季特別展に関連して、観音寺城跡と本尊薬師如来像御開帳中（4月8日～5月10日）の桑実寺を案内します。また秋季にも探訪を予定しています（詳細未定）。

4月25日（月）「観音寺城史跡案内①」

4月30日（土）「安土城探訪」

5月 7日（土）「桑実寺史跡案内②」

（3）その他の催し物 [中期計画(4)①iv b 対応]

体験博物館

- ・「あの遺跡は今」連携事業 7月30日（土）・7月31日（日）
- ・子ども考古学教室 8月 1日（月）
3月26日（日）
- ・勾玉を作ろう 7月25日（月）
8月27日（土）
- ・お正月飾りを作ろう 12月予定

博物館に親しむ

- ・親子写生大会 5月 1日（日）～5月5日（木）
- 同作品展示 6月14日（火）～7月3日（日）

（4）その他の事業

刊行事業 [中期計画(4)①iv b 対応]

- ・学芸員の調査研究成果をまとめた「紀要」の刊行
- ・「年報」の刊行
- ・博物館だより「おおてみち」の刊行（年4回）
- ・「催し物案内」の刊行（令和3年度下半期分、令和4年度上半期分）

開館30周年記念セレモニー [中期計画(4)①iv c 対応]

- ・開館30周年を迎える令和4年度最初の事業である春季特別展開幕に合わせて、記念式典を開催して、マスコミ等を通して情報発信を行います。

自主事業 [中期計画(4)①iv c 対応]

- ・第4期指定管理計画において提案した自主事業のうち、「文化財画像のWeb公開」と「『聴いて』『触れる』博物館」のコンテンツを作成・公開します。
- 「学芸員一口メモ」「特別展・企画展で紹介した史跡等をWebで探訪」は、令和4年度に準備を進めます。

2 滋賀県立琵琶湖文化館管理運営事業

予算額 21,565千円

1. 基本方針

平成20年度から休館している琵琶湖文化館について、当協会は、施設の維持管理や収蔵資料を活用した企画展の開催支援、ウェブサイトの更新など管理事務の分野における業務を受託し、収蔵品の管理・活用や寄託者対応などの学芸業務を担う県職員と協力して、館の運営に努めます。

なお、琵琶湖文化館の後継施設について、県は浜大津に（仮称）新・琵琶湖文化館を整備し、令和9年（2027年）度の開館を目指し準備を進めているところですが、開館までには未だ時間を要するため、館の活動内容や収蔵資料について積極的に情報を発信し、文化財講座等への参加を呼びかけるなど、県民サービスの充実を図り、新・文化館建設への機運醸成を図ります。

- (1) 施設管理
- (2) 展覧会事業
- (3) 普及啓発事業
- (4) 情報発信事業

2. 具体的な取り組み

(1) 施設の管理 [中期計画(2)④・(4)③対応]

① 目的

日常の施設維持管理を行うとともに、施設の小修繕や保守・点検等の維持管理を行います。夜間等職員不在時は機械警備を実施し、火災・地震等の緊急時に即応するため、県の職員も含めた緊急連絡体制を敷くなど、防犯・防災体制に万全を期します。また、県（学芸員）の指示の元で文化財の適切な収蔵保管環境を維持するために協力します。

② 内容

- ・施設設備の小修繕
- ・各種法定点検（消防設備、高圧受電設備、建築基準法に基づく施設・設備点検等）
- ・収蔵品小修理および収蔵庫内の環境管理に係る支出および契約等事務手続き

(2) 展覧会事業 [中期計画(4)③対応]

① 目的

休館中の琵琶湖文化館の収蔵品を他館で展示公開し、長年にわたり館が収集・保管してきた収蔵品に親しみ、滋賀の文化の豊かさを再認識し、文化財保護の取組みについても理解いただく機会として、地域連携企画展を開催します。令和4年度は、県内2地域と連携・協力し、地域にゆかりのある作品を展示公開します

秋) 野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）・守山市

冬) 滋賀県立安土城考古博物館

② 内容

- ・リーフレットやパネル作成、広報等の開催支援
- ・美術品移動に係る支出および契約等事務手続き

(3) 普及啓発事業 [中期計画(4)③対応]

① 目的

県と協働のもと、滋賀の文化財にまつわる最新情報を県民に向けて積極的に発信します。

② 内容

滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」全6回を開催し、多彩なジャンルで滋賀の文化財をめぐる話題を提供することで、文化財を身近に感じていただくとともに、その魅力を広く県民に向けて発信します。コロナ禍でオンライン配信によるサテライト会場（5カ所程度）の設置を視野に、県機関と協力の上、実施します。

第1回 5月25日（水）テーマ、講師は未定

第2回 6月23日（木） 同上

第3回 7月21日（水） 同上

第4回 8月18日（木） 同上

第5回 9月15日（木） 同上

第6回 10月20日（木） 現地探訪

・チラシ作成

・申込み受付、会場手配、会場準備等

(4) 情報発信事業 [中期計画(3)①②③・(4)③対応]

① 目的

ウェブサイトの運営においては、休館中の琵琶湖文化館の活動や収蔵品に関する話題を、親しみやすい内容で発信するとともに、新・琵琶湖文化館建設準備に向けた県の取り組みなどを紹介する重要なツールとして位置づけ、積極的な情報発信に努めます。あわせて、適宜屋外掲示板に情報を公開し機運醸成を

図ります。また、新聞やテレビなどの媒体を活用した広報に努め、県内の文化財保護の基盤の充実と向上に努めます。

② 内容

- ・ウェブサイトの充実
 - 収蔵品紹介・あきつブログ・講座イベント等
 - ウィズコロナに対応した自宅で楽しめるアイテムの作成（チャレンジ）
 - 県文化財保護課実施事業の紹介 等
- ・協会文化財通信への原稿提供
- ・埋文センターおよび県立図書館等への印刷物の設置
- ・報道機関への資料提供等

3. 滋賀県埋蔵文化財センター管理運営事業 予算額 22,652千円

1. 基本方針

滋賀県埋蔵文化財センターは、滋賀県の埋蔵文化財保護行政の中核を担う施設として、埋蔵文化財の保存および活用、調査および研究、出土遺物および記録資料の収集整理と収蔵保管、知識の普及および啓発等の業務を担っています。当協会は、県からその施設管理および運営を受託し、積極的に取り組みます。

2. 具体的な取り組み

（1）施設の維持管理事業 [中期計画 (4) ②a 対応]

- ① 庁舎の修繕や保守・点検等の維持管理を行います。
- ② 県内3か所に所在する収蔵庫の維持管理を行います。

（2）出土資料の保管管理事業 [中期計画 (4) ②b 対応]

- ① 収蔵資料の保管管理を行うとともに、未整理分の出土資料の点検、データ整理を行います。
- ② 出土資料等の貸出し、特別利用に関する業務を行います。
- ③ 当該年度発掘調査出土品および記録類を受入、収納し、データ作成を行います。
- ④ 発掘調査報告書等の書籍の受入、保管、貸出、閲覧業務を行います。

（3）普及啓発事業 [中期計画 (4) ②a・中期計画 (2) ①e 対応]

① ロビー展示の開催

玄関ロビーにおいて、県内の埋蔵文化財を紹介する展示「ドングリからコメへー淡海の弥生文化は水辺から始まった-」などを行い、随時展示替えを行います。

② JR湖西線大津京駅構内展示

大津京駅構内文化財展示場において、史跡に指定された遺跡を中心に出土遺物や写真パネルで展示・紹介します。

③職場体験学習等の受入

小・中学校の体験学習や中学生の職場体験に協力し、一般団体の見学等の受入を行います。

④出前授業の実施

小・中・高校の歴史授業について、各学校や遺跡・史跡（史跡近江国庁跡等）へ出向いて歴史授業に協力します。また、埋文センターが保管する出土資料を活用し、「出土品に直に触れられること」など、授業を通じて文化財に親しむ機会を提供します。

⑤体験学習の実施

夏休み期間に小学生を対象に「鋳造体験」などの古代の体験学習を実施し、文化ゾーンフェスティバルを実施する文化の日には、一般も含めた「鍛冶体験」の体験学習を行います。これらの体験学習はびわこ文化公園内のワークショップシリーズとして、県立美術館や各施設と連携して「アートにどぼん！」のプログラムとして実施します。また、要望に応じ社会教育の場でも実施します。

⑥「文化ゾーン探検隊」や「文化ゾーンフェスティバル」の実施。

文化ゾーン内に所在する文化施設に親しみ理解の醸成を図る目的で、県民に各施設を特別公開します（年2回）。また、「2022みどりのつどい」や「人権ミニフェスタ」に協力し、施設の特別公開を行います（年2回）。

⑦「埋もれた文化財の話」の編集

ロビー展示に関連したテーマを取り上げた解説パンフレットを作成します。

⑧ホームページをとおして、展示や埋蔵文化財等の情報を発信します。

（4）びわこ文化公園都市の活性化に向けた事業 [中期計画(2)⑥対応]

埋蔵文化財センターの立地するびわこ文化公園都市の活性化のため、美術館・図書館・公園事務所等との機能連携に努めます。また、滋賀県政150周年記念事業として美術館・図書館・埋蔵文化財センターの3館での共同事業にも取り組みます。

V 文化財保護基金および文化財活用基金

予算額83,143千円

（1）文化財保護資金貸付事業（中期計画(3)③c 対応）

指定文化財および登録文化財の保護・保存のため、文化財所有者が行う文化財の修理、防災施設および環境整備事業等に要する費用負担の軽減を図り、文化財の適正な維持管理が行えるよう必要な資金の貸付を行います。

貸付予定額 68,515,000円

貸付募集回数 年間2回

貸付時期	7月、12月
貸付限度額	1件 1,000万円以内
貸付利率	無利子
償還期間	7年以内（据置期間を含む）

（2）文化財活用資金貸付事業（中期計画③③c 対応）

指定文化財および登録文化財の活用のため、文化財所有者等が行う文化財の活用に関する事業（施設整備に係るものを除く。）に必要な費用の一時的な負担に対して、必要な資金（補助金等が交付されるまでの繋ぎ資金的性格）の貸付を行います。

貸付予定額	14,628,000円
貸付募集回数	年間2回
貸付時期	7月、12月
貸付限度額	1件 300万円以内
貸付利率	無利子
償還期間	事業完了後2ヶ月以内もしくは 国等の補助金の入金後1ヶ月以内